

# 展示に参加される方へ

## 埋蔵文化財資料館の収蔵品

当館には、本学構内遺跡（山口市吉田キャンパス＝吉田遺跡、山口市白石キャンパス＝白石遺跡、宇部市小串キャンパス＝山口大学医学部構内遺跡、宇部市常盤キャンパス＝山口大学工学部構内遺跡、光市光キャンパス＝御手洗・月待山遺跡）から出土した遺物の他に、山口県内の著名遺跡から出土した資料も数多く所蔵されています。

それらの多くは、主に昭和20年代後半から30年代にかけて、本学名誉教授である小野忠熙氏が発掘調査を担当した遺跡の出土品であり、かつ調査後に刊行された『発掘調査報告書』に掲載されなかったものが主体を占めています。現在、当館は報告書から漏れた資料に対し、継続的な再調査を実施し、調査報告を行っています。

その一方で、希少性が高く、良好な状態でありつつも、当館に収蔵されるまでの経緯などが不明であることから、学術調査報告が行えない資料も多数存在します。

## 考古資料の「等級」

「日本考古学の父」と呼ばれる濱田耕作は、以下のように述べています。

**遺物の等級** 鑑識の事固より十全を期し難きのみならず、鑑識により真物たりとせられたる遺物と雖も、之を學者自ら發掘の遺物と比較する時は、其の學術的價値に於いて大なる軒極あり。故に學者は常に此間に嚴重なる區別を設くるを要す。今一般史學の資料に倣ひて、遺物の等級を附すれば大概左の如し。

- (一) 第一等遺物 考古學者自ら發掘し、發掘地點、共存遺物の明なるもの
- (二) 第二等遺物 發見地明確なるも、其他の状態不明なるもの
- (三) 第三等遺物 發見地不明なるも、真物たること疑なきもの
- (四) 等外遺物 真偽不明なるもの

學者は其の研究に際して、常に第一等乃至第二等の遺物を資料とし其の綜合分析を試む可く、**第三等遺物の如きは單に参考に供するに過ぎざる可し。**

濱田耕作『通論考古學』大鏡閣 大正11年(1922)

## 資料の「情報提供」にご協力を！

濱田耕作が述べるように、遺物（考古資料）はその情報を失えば、研究の対象になりません。この理由により、当館に所蔵される由来不明資料も、収蔵庫の中に眠り続けざるを得なかったのです。

この企画展で公開する資料の多くは、半世紀以上前に収集され、山口大学に収蔵・寄贈されたものです。当時のことを覚えている方は少ないと想像されます。しかし、当館はわずかな「可能性」にかけてみたいと思います。

本学の卒業生、退職された教職員、地域の皆さま。もし展示資料に少しでも見覚えがあれば、何でもかまいません。貴方がお持ちの情報を、備え付けの『**情報提供ノート**』にお書き下さい！